



2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月16日

上場会社名 バルテス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4442 URL <https://www.valtes.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 真史
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 西村 祐一 TEL 06 (6534) 6561
 四半期報告書提出予定日 2021年8月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	1,448	22.7	△23	—	△22	—	△12	—
2021年3月期第1四半期	1,180	12.4	53	860.1	54	—	33	—

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 △12百万円 (—%) 2021年3月期第1四半期 33百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	△1.80	—
2021年3月期第1四半期	4.85	4.81

(注) 2022年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在するものの、1株あたり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	2,422	1,486	61.2
2021年3月期	2,541	1,498	58.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 1,482百万円 2021年3月期 1,494百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	2,943	21.9	108	△20.1	109	△20.5	70	△18.6	10.25
通期	6,451	22.5	464	34.8	468	34.9	305	23.7	44.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期1Q	7,150,000株	2021年3月期	7,150,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期1Q	229,310株	2021年3月期	229,310株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期1Q	6,920,690株	2021年3月期1Q	6,915,767株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、政府による経済活性化に向けた施策やワクチン接種が進んでいるものの、新たな変異株の出現や感染の再拡大により緊急事態宣言が再発令されるなど、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが属する情報サービス業界は、デジタル庁を中心とした行政のデジタル化推進やビジネス形態としてリモートワーク、クラウド環境の導入、IoT、AI、5Gなどのデジタルトランスフォーメーション(DX)に関連するIT投資を積極的に行う企業の増加などにより中長期的には市場規模の拡大が継続するものとみられます。

このような状況の下、当社グループの主力サービスであるソフトウェアテストサービスにおきましては、情報サービス市場の拡大と、ソフトウェア品質やセキュリティ意識の高まりにより着実に成長してきております。一方で、エンジニアの不足が顕在化しており、高度なスキルを有するエンジニアの確保が重要な課題となっておりますが、当社グループでは、適性のある業界未経験者を短期間でエンジニアとして戦力化する教育ノウハウと十分な研修体制を有しており、採用と教育とを一体化した戦略によりこの問題に対処してきております。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向け安全・衛生管理対策を実施し、安定した業務の維持や、営業活動を行ってまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,448,385千円(前年同期比22.7%増)と堅調に推移しましたが、一部の請負案件での採算悪化に伴う売上総利益率の低下や、採用費等の販売費及び一般管理費の増加により、営業損失は23,927千円(前年同期は53,928千円の利益)、経常損失は22,445千円(前年同期は54,110千円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は12,471千円(前年同期は33,510千円の利益)となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①ソフトウェアテストサービス事業

当事業においては、エンタープライズ領域の売上高が堅調に推移した他、大型マイグレーション(注1)案件及び新規大型再構築案件の上流工程・PMO(注2)として参画が増加し、外部顧客に対する売上高は1,288,160千円(前年同期比17.2%増)となりました。利益につきましては、期中採用人員に対する研修コストなどの先行投資費用の発生や、案件数増加に伴う外注費用の増加によりセグメント利益は22,344千円(前年同期比68.6%減)となりました。

「収益認識に関する会計基準」等の適用により、当第1四半期連結累計期間のソフトウェアテストサービスセグメントの外部顧客に対する売上高は11,649千円増加しております。なお、売上高の増加額と同額の売上原価が増加するため、セグメント利益への影響はありません。

(注1)マイグレーション

ソフトウェアやシステム、データなどを別の環境に移動したり、新しい環境に切り替えたりすること

(注2)PMO(Project Management Office)

組織内における個々のプロジェクトマネジメントの支援を横断的に行う部門や構造システム

②Web/モバイルアプリ開発サービス事業

当事業においては、株式会社アール・エス・アールを2020年9月末より新規連結したことなどにより、外部顧客に対する売上高は152,214千円(前年同期比86.8%増)となりました。利益につきましては、一部の請負案件で受注損失引当金を計上するなど採算が悪化した影響により、セグメント損失は34,002千円(前年同期は6,038千円の利益)となりました。

「収益認識に関する会計基準」等の適用により、当第1四半期連結累計期間のWeb/モバイルアプリ開発サービスセグメントの外部顧客に対する売上高は31,301千円増加しております。なお、売上高の増加額と同額の売上原価が増加するため、セグメント利益又は損失への影響はありません。

③オフショアサービス事業

当事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンがフィリピンにおいて2020年3月中旬より継続されていますが、在宅勤務環境の整備などにより、同年8月以降はほぼ通常通りの営業活動を行っております。当社を窓口とする日本企業との取引が堅調に推移し、外部顧客に対する売上高は8,010千円(前年同期はロックダウンの影響により外部顧客に対する売上はなし)、セグメント利益は4,931千円(前年同期は6,070千円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,893,357千円となり、前連結会計年度末に比べ125,874千円減少いたしました。これは主に現金及び預金の減少69,551千円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少28,414千円、仕掛品の減少28,118千円によるものであります。固定資産は529,294千円となり、前連結会計年度末に比べ7,040千円増加いたしました。

この結果、総資産は2,422,652千円となり、前連結会計年度末に比べ118,833千円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は858,853千円となり、前連結会計年度末に比べ99,840千円減少いたしました。これは主に未払法人税等の減少66,444千円、賞与引当金の減少60,605千円によるものであります。固定負債は77,496千円となり、前連結会計年度末に比べ6,551千円減少いたしました。

この結果、負債合計は936,349千円となり、前連結会計年度末に比べ106,391千円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,486,302千円となり、前連結会計年度末に比べ12,442千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失12,471千円の計上によるものであります。

この結果、自己資本比率は61.2%（前連結会計年度末は58.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、2021年5月14日に公表いたしました当初予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,190,497	1,120,945
受取手形及び売掛金	727,072	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	698,657
電子記録債権	15,312	8,191
仕掛品	28,118	—
その他	58,230	65,562
流動資産合計	2,019,231	1,893,357
固定資産		
有形固定資産	101,283	100,223
無形固定資産		
のれん	68,824	67,637
その他	133,961	132,236
無形固定資産合計	202,785	199,873
投資その他の資産		
繰延税金資産	137,622	149,484
その他	80,563	79,712
投資その他の資産合計	218,185	229,196
固定資産合計	522,254	529,294
資産合計	2,541,485	2,422,652
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,723	116,933
短期借入金	125,000	125,000
1年内返済予定の長期借入金	21,948	21,948
未払金	339,604	338,004
未払法人税等	67,508	1,064
賞与引当金	127,945	67,339
受注損失引当金	3,211	7,509
その他	157,752	181,053
流動負債合計	958,693	858,853
固定負債		
長期借入金	76,695	71,208
退職給付に係る負債	27	42
その他	7,325	6,246
固定負債合計	84,047	77,496
負債合計	1,042,740	936,349
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	755,896	755,896
利益剰余金	654,156	641,684
自己株式	△5,395	△5,395
株主資本合計	1,494,656	1,482,185
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△110	△81
その他の包括利益累計額合計	△110	△81
新株予約権	4,199	4,199
純資産合計	1,498,744	1,486,302
負債純資産合計	2,541,485	2,422,652

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	1,180,825	1,448,385
売上原価	904,818	1,159,423
売上総利益	276,007	288,961
販売費及び一般管理費	222,078	312,889
営業利益又は営業損失(△)	53,928	△23,927
営業外収益		
受取利息	1	1
助成金収入	—	1,636
為替差益	200	153
その他	327	141
営業外収益合計	529	1,932
営業外費用		
支払利息	272	450
支払保証料	75	—
営業外費用合計	348	450
経常利益又は経常損失(△)	54,110	△22,445
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	54,110	△22,445
法人税、住民税及び事業税	549	1,887
法人税等調整額	20,049	△11,861
法人税等合計	20,599	△9,974
四半期純利益又は四半期純損失(△)	33,510	△12,471
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	33,510	△12,471

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	33,510	△12,471
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△325	29
その他の包括利益合計	△325	29
四半期包括利益	33,184	△12,442
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,184	△12,442
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。従来、請負契約に係る収益は完成基準により認識しておりましたが、収益認識会計基準等の適用に伴い、当該履行義務を充足する際に発生する費用を回収することが見込まれるものについては、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることが出来る時まで、原価回収基準により収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価はそれぞれ42,950千円増加しております。なお、売上高の増加額と同額の売上原価が増加するため、売上総利益以下に影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソフトウェア テスト サービス	Web/ モバイル アプリ開発 サービス	オフショア サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,099,331	81,494	—	1,180,825	—	1,180,825
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	13,919	2,403	16,322	△16,322	—
計	1,099,331	95,413	2,403	1,197,147	△16,322	1,180,825
セグメント利益又は損失(△)	71,257	6,038	△6,070	71,225	△17,296	53,928

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△17,296千円は、セグメント間未実現利益の調整額等△676千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△16,620千円であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソフトウェア テスト サービス	Web/ モバイル アプリ開発 サービス	オフショア サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,288,160	152,214	8,010	1,448,385	—	1,448,385
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,847	31,561	15,304	55,714	△55,714	—
計	1,297,008	183,776	23,315	1,504,099	△55,714	1,448,385
セグメント利益又は損失(△)	22,344	△34,002	4,931	△6,725	△17,201	△23,927

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△17,201千円は、セグメント間未実現利益の調整額等△311千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△16,890千円であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、当第1四半期連結累計期間のソフトウェアテストサービスセグメントの外部顧客への売上高は11,649千円増加、Web/モバイルアプリ開発サービスセグメントの外部顧客への売上高は31,301千円増加しております。なお、売上高の増加額と同額の売上原価が増加するため、セグメント利益又は損失への影響はありません。